

# のじぎくの育て方

## 性質

キク科の多年草。花は白色の舌状花と黄色の筒状花からなり、霜が降ると花卉が薄赤に変化する。

一般のキクと同じように冬至芽や春以降に茎を挿し木して増やせるが、実生でも良く増えるため、同時期に咲くキクと交雑し、黄色やピンクの花が咲くことがある。一旦交雑してしまうと、どれがノジギクかが不明になるため、種子が出来ないよう花が咲き終わるとすぐに地際で刈り取る。

兵庫県の中部付近の日当たりの良い山中には草丈30～50cmになるリュウノウギクが自生（分布：本州（福島、新潟県以西）、四国、九州）しているが、ノジギクとは別の種類。



## 楽しみ方

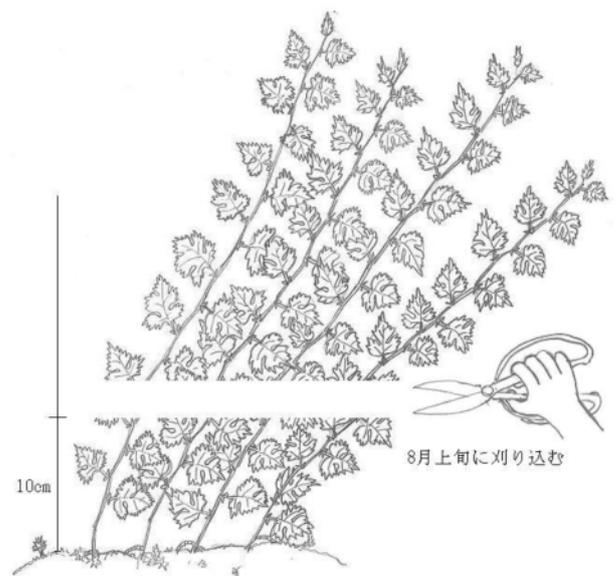
### 1 鉢植え

5月に挿し木した苗を9cmポットに植え付け、水を切らさないように管理する。野生の雰囲気を出し出すには、ポットに植えたままで花が咲くまで管理をしススキや秋の草花との寄せ植えにする。水切れすると下葉がなくなり、見苦しくなるので、8月上旬にピンチをする。

肥料は緩効性肥料を土中に混入するか、IB化成を成長期に9cmポットで2粒程度与える。鉢植えの場合は1年で根が回ってしまうので毎年必ず植え替えをする。

### 2 花壇植栽

2月の冬至芽を挿し木した苗か5月に挿し木した苗を花壇に植栽する。肥料をたくさん与えると、株が大きくなり野生種といった雰囲気が壊れてしまう。周辺に支えになるような草木がなければ、途中から曲がり始め放任状態で80cm先に花を付ける事になるので、思い切って8月上旬に地上部を、10cm程度残してバッサリと刈り込むことで秋には、風情のある雰囲気の花を見ることが出来る。一度花壇に植え付けると長く楽しむことができるが、3年に一度は植え替えが必要となる。



### 3 切り花

11月に開花した花を小さめの花器に生けて楽しむのも趣きがある。

## 管理

多年草なので地上部が枯れても、地下茎が繁茂し冬には顔を出す。これが冬至芽である。芽を親株からそぎ取ってそのまま植え付けるか、植え付けた後に挿し木しても良い。

病害虫はあまり気にならないが、肥培すると新芽にアブラムシが付いたり、夏以降にはツノロウカイガラムシが幹に付いたりもするので、成長期に殺菌剤と殺虫剤を1回程度散布する。